

社会福祉法人武蔵野千川福祉会 桜寮ユニット 令和7年度 地域連携推進会議 議事録

1. 日時

11月19日(水) 10:00~12:00

2. 場所

第二桜寮(武蔵野市桜堤 2-11-10)

3. 出席者

【①～⑤は地域連携推進委員】

① 利用者代表	新川 千春	様 (第一桜寮利用者)
② 利用者代表	遠藤 智大	様 (関前上水寮利用者)
③ 利用者家族	湊 志津子	様 (第二桜寮利用者家族)
④ 地域の関係者	横山 勇	様 (桜野地域福祉活動推進協議会会長)
⑤ 福祉に知見のある方	中村 喜美	様 (武蔵野市民社会福祉協議会主事)
⑥ 法人職員	唐澤 啓一	(法人常務理事)
⑦ 法人職員	山岡 誉	(桜寮ユニット管理者)
⑧ 法人職員	越井 充之	(桜寮ユニット主任)

4. 目的

- 当事業所の運営・支援状況と施設環境を共有すること。
- 権利擁護、衛生・整備、サービスの課題・必要性について外部の視点で点検すること。
- 意見・助言を踏まえ、運営改善と地域連携の具体化につなげること。

5. 議題

① 本会議開催の意義について説明

② 事業説明

「法人の沿革と概要について」

「法人における共同生活援助事業の特徴について」

「グループホームを取り巻く法制度の動向と自立支援の推進」

③ 利用者インタビュー

「利用者代表2名の「働く」と「暮らす」について」

④ 意見・感想

⑤ ユニットの見学(6事業所)

第一桜寮／第二桜寮／天の臺寮／吉祥寺泉寮／関前上水寮／境南葵寮

6. 配布資料

① 桜寮ユニット地域連携推進会議スライド資料

② 法人パンフレット

7. 議事

① 本会議開催の意義について説明

- 本会議は令和6年度の障害福祉サービス報酬改定にともない、地域連携推進会議の設置された(令和7年度より義務化)ことにより開催をする。
- さらにその背景には、平成28年(2016年)に神奈川県で発生した津久井やまゆり園事件を受け、大規模入所施設における閉鎖的な状況が問題視されたため、「事業所の透明性を担保する必要性がある」という指導があった。
- 本会議の議事録は作成義務があり、法人のホームページ等で公表されることになっている。

② 事業説明

「法人の沿革と概要について」

- 武蔵野千川福祉会は、1976年(昭和51年)の千川作業所の開所からスタート。
- その後、地道に市内で事業展開を続け、現在は武蔵野市内に12事業、21事業所を展開している。

「法人における共同生活援助事業の特徴について」

- 法人のグループホームは計6事業所あり、定員42名に対し、42名の方が利用している。
- 男女の比率は男性38名、女性4名(女性は第一桜寮2階の4室に居住)。
- 職員は地域生活支援部で16名。調理清掃のパート職員が9名。直接支援は全て正職員が行うのが法人の特徴である。
- 「できることは自分で」「できることを増やす」という支援方針のもと、実践を進めている。
- 利用者年齢層では、50代以上の方が41%を占めるなど、高齢化が進んでいる。
- 障害の程度(愛の手帳)では、3度の方が中心だが、2度や4度の方もいる。
- 親の介護負担増、あるいは親の死(親なき後の生活)により、週末帰宅ができない、または帰宅する頻度が減った利用者が11名いる。
- 65歳問題(介護保険制度への切り替え)があり、ケースバイケースでの対応が必要だが、行政との情報共有が課題だととらえている。

「グループホームを取り巻く法制度の動向と自立支援の推進」

- 厚生労働省の描く方向性として、グループホーム事業への総量規制が予定されており、今後新規でのグループホーム開設はさらに難しくなることが予想される。地域で自立した生活ができる方は、アパート等での一人暮らしに移行する流れとなってきた。
- 現状を踏まえ、法人としては今年10月より、「ひとり暮らし体験事業」をスタートした。また、同事業の実施拠点として、武蔵野市の遺贈物件(吉祥寺南町)を借り受け、名称を「つぼみの家」とした。

③ 利用者インタビュー

「利用者代表2名の「働く」と「暮らす」について」

(利用者代表 新川さん)

- 武蔵境ワーキングセンターではダイレクトメールの封入作業などに取り組んでいる。封函機を使う作業が好き。
- 将来は幼稚園の先生になりたい。
- グループホームに入所したのは18歳。養護学校を卒業して、すぐだった。

(利用者代表 遠藤さん)

- チャレンジャーでは結束機(バンドをかける機械)を担当しており、「結束の遠藤」と呼ばれている。
- 2015年(25歳)に上水寮へ入寮した。
- 現在の目標はひとり暮らし。4月26日からアパートに住みたいと考えている。
- ひとり暮らし体験は楽しい。買い物や病院の支払いなど、全て自分のお金で払っている。

④ 意見・感想

(利用者家族 湊様)

- 職員の日頃の支援に感謝する。
- 65歳に達した際に障害福祉サービスから介護保険制度へと切り替わる可能性がある。その結果、現在利用しているグループホームを引き続き利用できなくなるのではないかという不安がある。
- 制度が変わった際に本人の生活を親族(親および兄弟)がどのくらい支援できるのかについても不安がある。

(桜野地域福祉活動推進協議会会長 横山様)

- 地域連携による支援体制が重要だと思う。
- 「65歳問題」や「きょうだい児の課題」など地域福祉に関わる社会的なテーマについて関心がある。今回の会議はとても参考になった(関連するテーマで放送されたNHK番組の情報提供があった)。

(武蔵野市民社会福祉協議会主事 中村様)

- ここにグループホームがあることは知っていたが、実際の生活の様子や運営の状況については十分に理解していなかったので、今回はとても勉強になった。今回の会議を通じて、グループホームの実態をより具体的に理解できた。

- 地域の方と一緒にボランティア活動などに取り組む立場として、今後も協力していきたい。
(利用者 新川さん)
- 楽しかったです。
(利用者 遠藤さん)
- ひとり暮らし体験楽しいです。結束やっています。就職したいです。アパートに住みたいです。

以上